

氏名	本 田 輝 行
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 〇 号
学位授与の日付	平成16年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Autochthonous experience, heightened awareness, and perception distortion in patients with schizophrenia: a symptomatological study (統合失調症における自生体験、気づき亢進、知覚変容：症候学的研究)
論文審査委員	教授 小川 紀雄 教授 大塚 頌子 助教授 浅沼 幹人

#### 学位論文内容の要旨

統合失調症前駆期における特異的症状として中安が提唱した「初期統合失調症症状」のうち自生体験、気づき亢進、知覚変容（以下AHP）を取り上げ、顕在発症後の統合失調症におけるその存在頻度、特異性、精神症状との関連を調べた。統合失調症群、感情障害群、対照群に対しAHP（下位9症状：自生思考、自生内言語、自生記憶想起、自生空想表象、自生視覚表象、視覚性気づき亢進、聴覚性気づき亢進、視覚変容、聴覚変容）の存在について構造面接を行い、3群におけるAHPの存在頻度を比較し、統合失調症群に対してはBrief Psychiatric Rating Scale(BPRS)とAHPとの関連を分析した。結果AHPは統合失調症に有意に高頻度に存在しその重症度と関連、下位症状については自生思考と多彩な精神病症状、自生体験と不安、聴覚性のAHPと幻覚妄想など産出性症状、視覚変容と緊張病症状に密接な関連が存在した。結論として統合失調症におけるAHPは精神病症状と関連を持つ特徴的存在であり、症候学的評価上重要であること、また前駆期の特異的症状というよりいわば準精神病症状として位置付けうることを示唆される。

#### 論文審査結果の要旨

本研究は、統合失調症の初期症状あるいは前駆期症状として提唱されている自生体験、気づき亢進、知覚変容（以下これらを3症状 AHPと呼ぶ）について、顕在発症後の統合失調症患者における存在頻度、特異性、さらには精神症状の重症度との関連性を構造面接によって検討したものである。その結果、AHP は統合失調症患者に特異的かつ高頻度に存在し、精神症状の重症度と関連性が高いことを明らかにし、AHP が初期症状や前駆症状というよりも、むしろ統合失調症において精神症状に準ずる基盤的な症状であることを浮き彫りにしたものである。この知見は臨床精神医学に貢献する価値ある業績である。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。